Dynavector SuperStereo Adapter

DV SS Adp-3

取扱説明書

目 次

ダイナベクター株式会社
〒101-0032
東京都千代田区岩本町 2-16-15
TEL 03-3861-4341　FAX 03-3862-1650

はじめに

■ スーパーステレオとは

　スーパーステレオは、通常のサラウンドプロセッサや DSP プロセッサとはその考え方や理論が根本的に異なり、ダイナベクター社が 18 年以上の歳月を費やし完成させた画期的な音楽再生システムです。スーパーステレオの原理は物理学の基礎に立ち戻り、音の伝搬を波動としてとらえ、この考えを音楽再生に発展させたものです。この全く新しい発想に基づく再生方法は、従来のオーディオの常識に反し、次のような数々の特長を有しています。

１．今お使いのステレオ装置をスーパーステレオ化することで、音楽そのものがより一層楽しめるようになり、昔の LP から最新 CD まであらゆる音楽ソースが生まれ変わります。

２．今までのオーディオへの投資が無駄になりません
　スーパーステレオはハイファイを追求したオーディオマニアにも十分ご満足いただけます。そのため、いままでのオーディオへの投資が無駄にならず、その絶大なる効果は高価なケーブル、インシュレーターなどのアクセサリーとは一線を画すものです。

３．驚くほどリアルなその臨場感！！
スーパーステレオの目的は、自然なコンサートホールでの「豊かな臨場感」とライブ音楽が持つ「リアルな雰囲気」をご自宅で容易に実現することです。特に、通常のステレオ再生では埋もれてしまう微小音が、驚くほどハッキリと聞き分けられ、その生々しさはまさに演奏会場にいるようで、音楽的感動や心地よい充足感が得られます。

４．スーパーステレオは音楽再生を目的としていますが、DVD など映像を伴うソースでも十分楽しんでいただけます。特に５．１サラウンドのような特殊録音されたソースでも OK。録音の方式は問わず、どのようなメディアでも録音された音の数々が鮮やかに再生されます。そのリアルさと迫力はホームシアターとしての機能も十分有しています。

５．サブウーファなしに重低音が再生できます
　スーパーステレオではサブウーファは必要なく、４個の小型スピーカだけで驚くほどの重低音が再生できます。これはスーパーステレオだけが持つ大きな特長のひとつで、その重低音はより自然で、従来のサブウーファやバスレフポート（共鳴器）を利用したある種の不自然さを伴う重低音とは異なります。またサブウーファが必要ないので、ご家庭でその置き場所に頭を悩ますことはありません。

■ SS-Adp3 の特長

（１）スーパーステレオ回路のほかサブスピーカ駆動用アンプが搭載されていますので、サブ用の小型スピーカを追加するだけで、お手持ちのステレオ装置を容易にスーパーステレオ化できます。
（２）DSP サラウンドや５．１サラウンドにありがちな複雑な調整やセッティングが不要です。
（３）３通りの音場がプリセットされておりますので、音楽の種類や好みにあわせてその場に相応しい効果が容易に得られます。
（４）入力系統はスピーカ入力端子の他プリ入力端子を装備していますので、プリアンプ等ハイファイオーディオとの組合わせも容易で、市販のほとんどのステレオ装置と組合わせることができます。
（５）スーパーステレオプロセッサ・ライン出力端子を装備していますので、別途大型アンプを使用することで大音量再生にも対応可能です。

スピーカの選定と配置

スピーカの選定

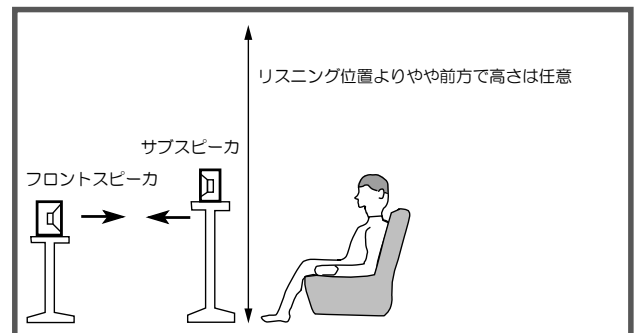
スーパーステレオでは合計４台のスピーカを使用しますが、いずれも小型スピーカを推奨しています。スーパーステレオは原理的に小型スピーカだけでも豊かな低音が再生可能です。これはスーパーステレオのとても重要な特長の１つで、サブウーファの必要がなく、その低音は通常のステレオ再生では得られない自然且つ重厚で深みのあるものです。

（1）フロントスピーカ
基本的に現有されているスピーカをそのまま使用できます。音のクオリティや音質はフロントスピーカに影響されますので、良質のスピーカシステムをお持ちの方は、お持ちのスピーカをフロントとしてそのまま使用することにより、そのクオリティを生かしたスーパーステレオが構成できます。
新たにフロントスピーカを用意される場合は、小型スピーカで音質的に良質なものを推奨します。

（2）サブスピーカ
フロントが大型スピーカの場合でも、口径 10 ～ 13cm の小形スピーカをお勧めします。サブスピーカに大きなスピーカーを使用した場合、ご家庭では低音過多で不自然な音場になってしまう場合があります。できれば密閉タイプをお勧めしますが、バスレフのものでもバスレフポートにフェルトを詰めるなど調整は可能です。

スピーカ基本配置

４台のスピーカの基本的な配置は図１のようになります。次のような基本を守っていただければ、設置場所の厳密さは特に必要なく、部屋の条件に合わせて幅広く対応可能です。お部屋の状況やお使いのシステムにより決定してください。

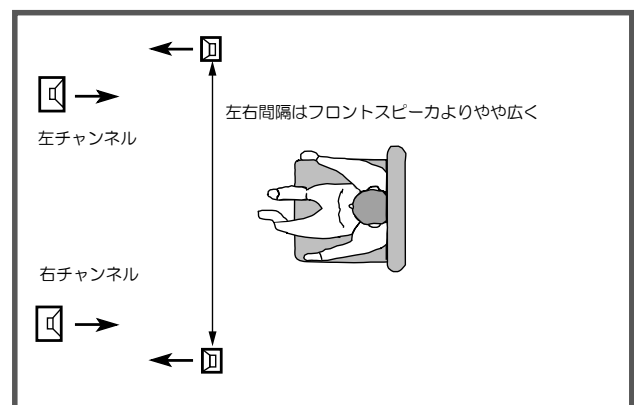
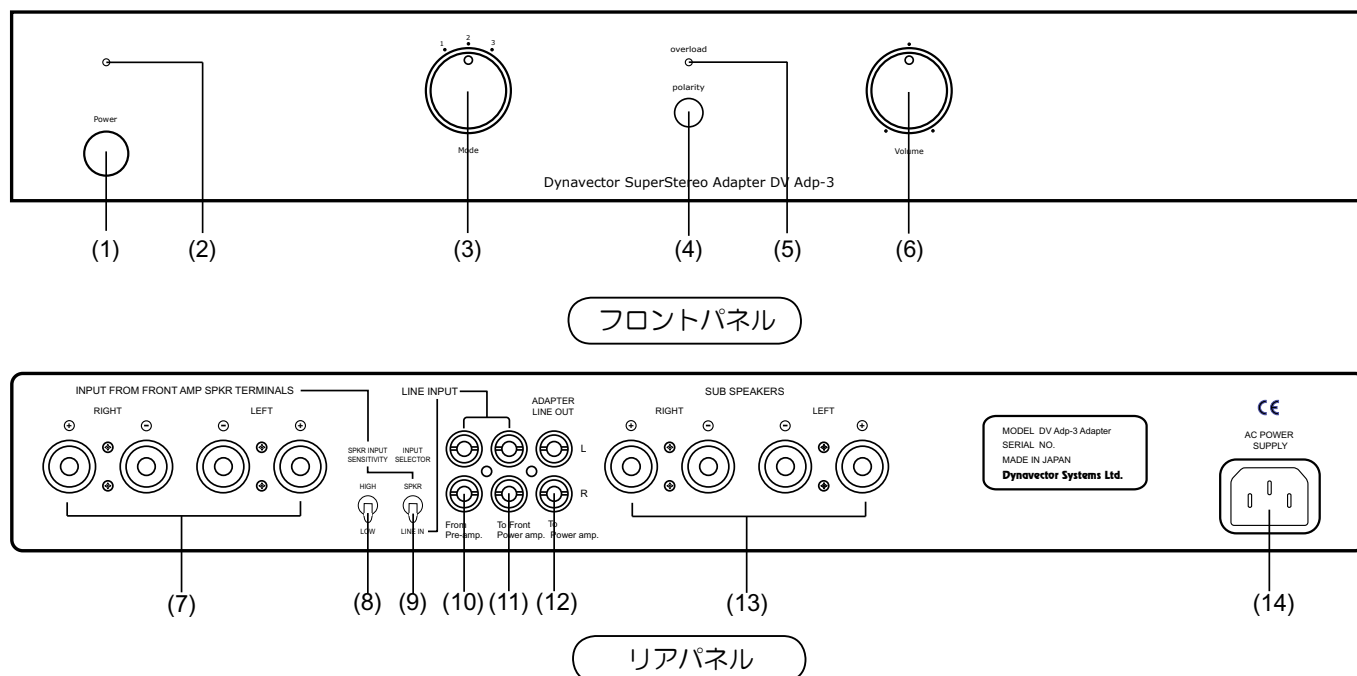
●スピーカは必ず対向させる
フロントスピーカは通常のステレオ再生と同様に試聴位置に対し左右均等になるよう設置します。サブスピーカは、左右の間隔がフロントスピーカより広く配置する方が効果的です。またスーパーステレオでは、サブスピーカをフロントスピーカに対して対向させるのが基本です。スーパーステレオではお互いの音を空間でぶつけ、干渉させることによりその効果を得るため、これは重要なスピーカ設置条件です。通常のサラウンドシステムでは、サブスピーカがリスナー側に向けられるますが、この点が異なります。

●サブスピーカは試聴位置より前方で、 高さは任意
サブスピーカの前後位置は、試聴位置よりやや前方へ設置します。設置高さは床置きから天井付近まで可能ですので、部屋の状況や再生音の好みにより選択してください。
床置きの場合,音像の重心が低くなり低音の量感が増しますが、広がり感はやや減少します。逆に高さが高くなるに従い音像が上がり、広がり感は増します。
部屋の奥行きが確保できず、サブスピーカが試聴位置に近接してしまう時は、スピーカの位置を高くするなどして、耳より遠ざけます。

●設置位置はラフで OK
サブスピーカは、フロントスピーカに対向させると言う条件さえ満足できれば、設置場所にそれほど厳密さは必要ありません。お部屋の状況等により左右のスピーカの高さや前後位置が多少違っても OK です。

図１

各部の名称と働き

フロントパネル

リアパネル

（１）電源スイッチ (POWER)
電源スイッチ。押すと本機の電源が ON になります。

（２）電源 ON 表示ランプ
電源が入ると LED(緑) が点灯します。

（３）モード選択スイッチツマミ（MODE）
あらかじめ設定された３つの音場モード (スーパーステレオ効果) をこのツマミで選択します。聴かれる音楽や好みで切替えます。

（４）極性切替スイッチ（Polarity）
フロントスピーカに対し、サブスピーカの極性（＋と－）が反転します。音像の定位感や低音の量感が変わりますので、聴感上良い再生音が得られる方で使用します。

（５）オーバーロード・インジケータ（OVER LOAD）
入力レベル（INPUT) が大きすぎる場合 LED（赤）が点滅または点灯します。プリメインアンプ等の音量を下げるか、本機背面のスピーカ入力感度切替スイッチ（８）を「LOW」側にします。

●本機の電源 ON/OFF 時に一時的に LED が点灯しますが、異常ではありません。

（６）ボリュームツマミ（VOLUME）
サブスピーカの音量を調整するツマミです。右に回すに従い音量が大きくなり、スーパーステレオ効果が増大します。

（７）スピーカ入力端子（INPUT FROM FRONT AMP SPK TERMINAL）
通常はプリメインアンプ等の左右スピーカケーブルをそれぞれ分岐させ、一方をフロントスピーカへ接続し、もう一方を（７）の入力端子に接続します。

（８）スピーカ入力感度切替スイッチ（SPKR INPUT SESITIIVITY）
通常は「HIGH」側に設定します。入力信号が大き過ぎ、フロントパネルのオーバーロードインジケータが点灯する場合は「LOW」側に切替えます。

（９）入力切替スイッチ（INPUT SELECTOR）
入力される信号がスピーカ出力の場合は SPKS(上側)、プリアンプ出力の場合は LINE(下側) に設定します。

（１０）（１１）ライン入力端子（LINE INPUT）
プリアンプ出力を、この端子に入力します。このとき（９）の切替スイッチは LINE 側にします。
通常は（１０）の端子を使用し、（１１）の入力端子はプリアンプ出力が１系統しかない場合に使用する予備端子です。この場合、はじめにプリアンプ出力を（１０）の端子に接続し、次に（１１）の端子を経由してフロント用パワーアンプに接続します。

（注）この時（１１）から出力される信号はプリアンプ出力と全く同じ信号で、スーパーステレオ回路は通過しません。

（１２）アダプターライン出力（ADAPTER LINE OUT）
Adp3 で創成されたスーパーステレオのエフェクト信号（分散音）が出力されます。別のパワーアンプでサブスピーカを駆動するとき、この出力端子からスーパーステレオエフェクト信号（分散音）を取り出します。

（１３）サブスピーカ端子（SUB SPEAKERS)
スピーカケーブルでこの端子とサブスピーカを接続します。

（１４）電源コンセント（AC POWER SUPPLY)
付属の電源コードを用い AC　１００V のコンセントに挿しこみます。

接続の仕方（１）

システムコンポやプリメインアンプとの接続方法

接続の際には、すべての機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。

１．本機に入力する信号（音楽信号）は、使用されているプリメインアンプ等のスピーカ端子から取る必要があります。図のようにステレオ背面のスピーカコードを一度取外し、付属の短い方のスピーカコードの先端の絶縁部を 10mm ほど剥いた上、お互いを撚り合わせ一本にまとめます。これをステレオのスピーカ端子に差込みシッカリと締め付けます。

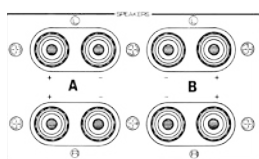
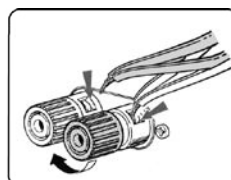
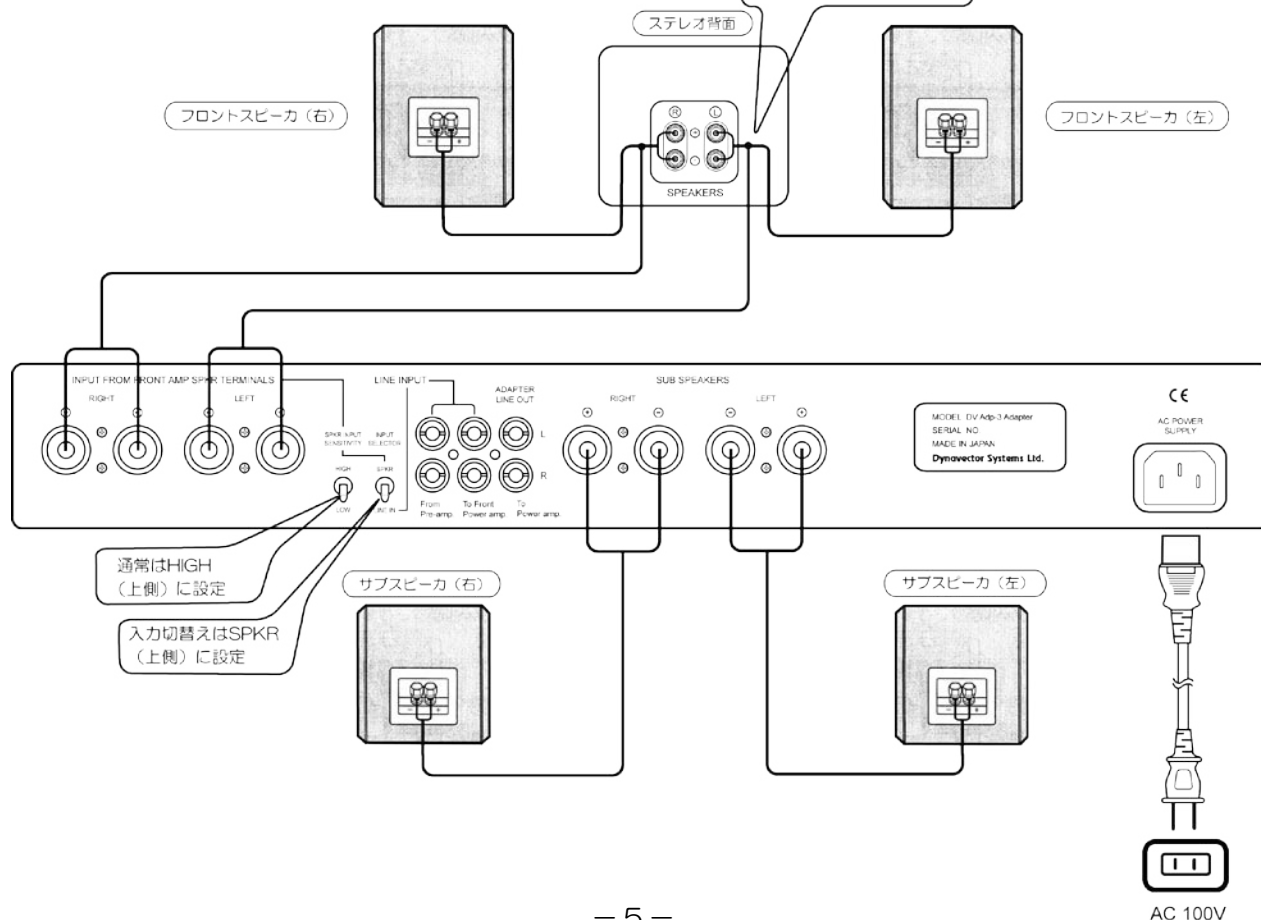
２．スピーカコードの１本はフロントスピーカ端子に、もう１本は本機のスピーカ入力端子（７）に接続します。このときスピーカコードの左右（LR）及び極性（+）（-）が、逆にならないよう注意してください。

３．本機の背面にある入力切替スイッチ（９）を SPKS（上側）にします。

４．本機の背面にあるスピーカ入力感度切替スイッチ（８）を「HIGH 側」にします。

※通常聴かれる音量で、フロントパネルのオーバーロードインジケータ（５）が頻繁に点滅または点灯する場合は、「LOW 側」に切替えます。

５．付属のスピーカケーブルで、本機のサブスピーカ端子（１３）とサブスピーカを接続します。このときスピーカコードの左右（LR）及び極性（+）（-）が逆にならないよう注意してください.

６．本機とすべての機器の電源コードを、AC100V に接続して必要な接続は完了です。

接続の仕方（２）

プリアンプとの接続方法

接続の際は、すべての機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。
ご使用のステレオ装置がプリアンプとパワーアンプに分かれている場合には次のように接続します。

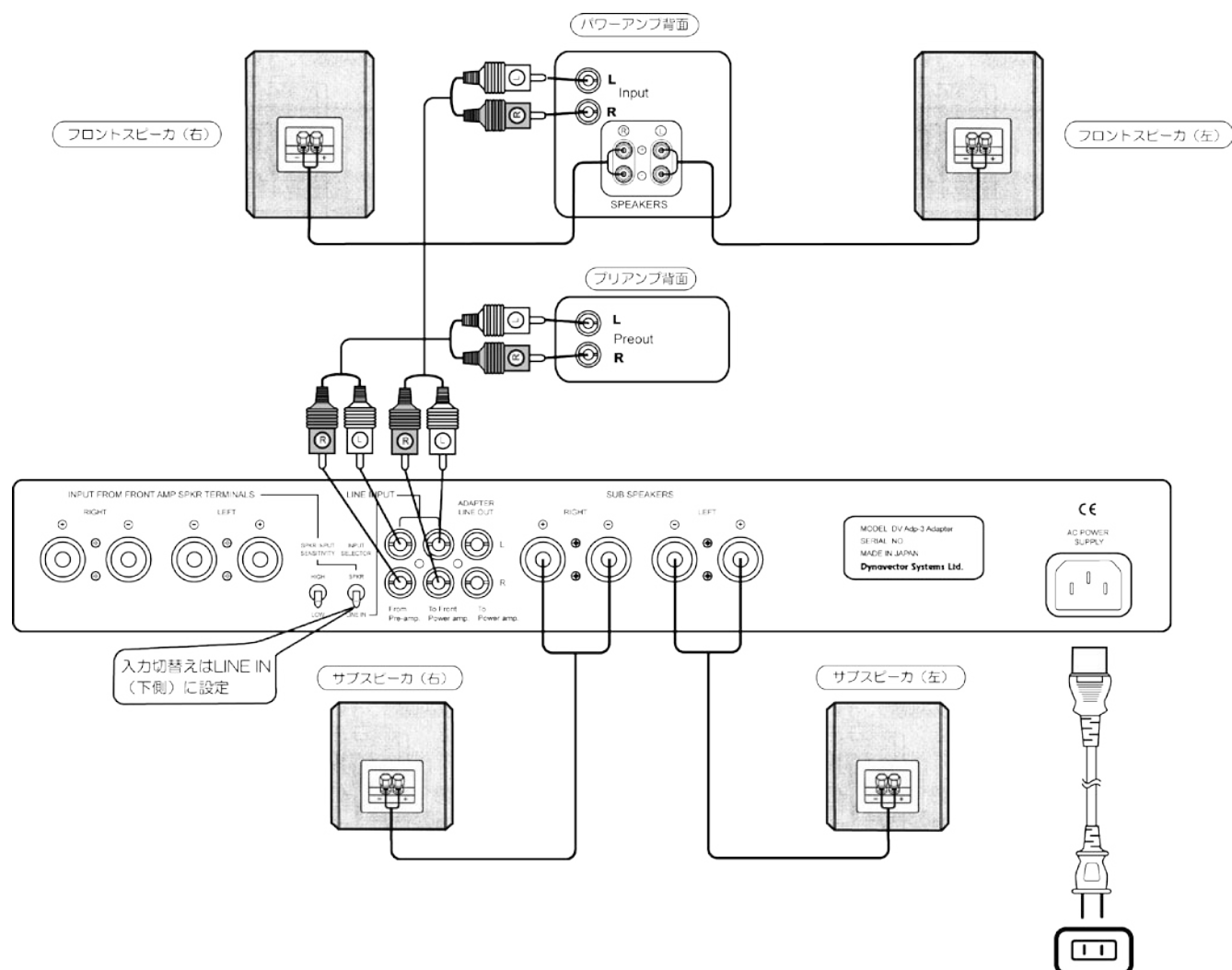
１．プリアンプのプリ出力が２系統ある場合は、RCA ピンコードを用い、一方をフロント用パワーアンプへ、もう一方を本機の LINE INPUT 端子（From Pre-amp）（１０）に接続します。

２．プリアンプのプリ出力が１系統しかない場合は、下図のように、プリ出力を本機の LINE INPUT 端子（From Pre-amp 側）（１０）に接続し、更に LINE INPUT 端子（To Front amp）（１１）をフロントスピーカ用パワーアンプに接続します。

※この接続では、フロント用パワーアンプにはプリ出力と同じ信号が入力され、スーパーステレオ回路は一切通過しません。

３．本機の背面にある入力切替スイッチ（９）を LINE IN（下側）にします。

４．付属のスピーカケーブルで、本機のサブスピーカ端子（１３）とサブスピーカを接続します。このときスピーカコードの左右（LR）及び極性（+）（-）が、逆にならないよう注意してください．

６．本機とすべての機器の電源コードを、AC100V に接続して必要な接続は完了です。

接続の仕方（３）

サブスピーカを外部パワーアンプで駆動する場合の接続方法

接続の際は、すべての機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。
使用するステレオ装置がプリアンプとパワーアンプに分かれている場合で、さらにサブスピーカを外部アンプで駆動する場合です。イベントなど大きな音量で再生する場合の接続方法です。

１．プリアンプのプリ出力が２系統ある場合は、RCA ピンコードを用い、一方をフロント用パワーアンプへ、もう一方を本機の LINE INPUT 端子（From Pre-amp）（１０）に接続します。

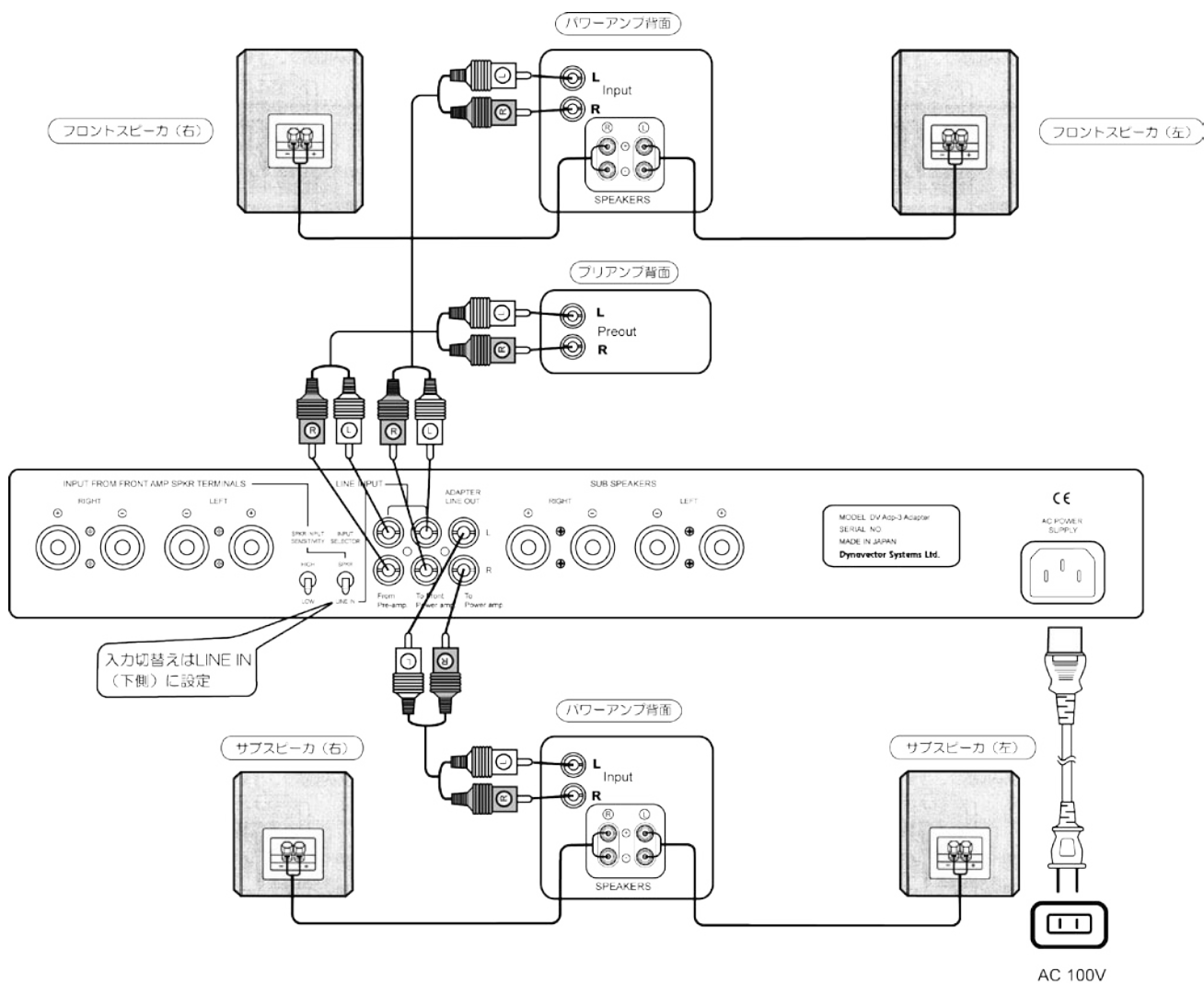
２．プリアンプのプリ出力が１系統しかない場合は下図のように、プリ出力を本機の LINE INPUT 端子（From Pre-amp 側）（１０）に接続し、更に LINE INPUT 端子（To Front amp）（１１）をフロントスピーカ用パワーアンプに接続します。

※この接続ではフロント用パワーアンプにはプリ出力と同じ信号が入力され、スーパーステレオ回路は一切通過しません。

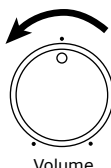
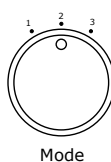
３．本機の背面にある入力切替スイッチ（９）を、LINE IN（下側）にします。

４．RCA ピンケーブルで、ADAPTER LINE OUT 端子（１２）を、サブスピーカ駆動用パワーアンプの入力端子に接続します。

５．サブスピーカとこれを駆動するパワーアンプのスピーカ端子を接続します。このときスピーカコードの左右（LR）及び極性（+）（-）が、逆にならないよう注意してください．

６．本機とすべての機器の電源コードを AC100V に接続して必要な接続は完了です。

操作と調整

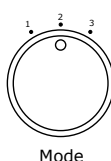
電源を入れる前に、すべての接続をもう一度確認してください。スーパーステレオの効果を最大限に発揮するには、フロントスピーカとサブスピーカの、音量バランスをうまく取ることが重要です。
次の手順で調整してください。

1．本機フロントパネルの VOLUME（6）を左に回し切り最小にします。

2．本機フロントパネルの MODE（3）を2のポジションへ設定します。

3．CD 等を再生状態にして、プリメインアンプやプリアンプのボリュームを徐々に上げていき、フロントスピーカの左右から音が正しく出ることを確認します。

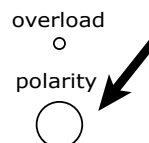
4．フロント側を通常試聴する程度まで音量を上げます。

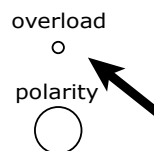
5．本機フロントパネルの VOLUME（6）を徐々に上げていき、サブスピーカの左右より音が出ているのを確認します。VOLUME を上げるに従い、スーパーステレオ効果が顕著になりますので、フロントスピーカとサブスピーカの音量バランスを、聴かれる音楽の種類や好みで、良い位置に設定します。

●サブスピーカの音量が小さ過ぎると、スーパーステレオ効果が半減しますので、初めはサブスピーカの音量を十分上げ、その効果を確認してください

6．本機 MODE（3）を切替えることによりスーパーステレオ効果が変化します。聴かれる音楽の種類や好みでよいポジションを選択します。

7．フロントスピーカとサブスピーカの、音量バランスが決まった後は、全体の音量を、プリアンプかプリメインアンプのボリュームで調整します。

極性のチェック

スーパーステレオ効果、特に低音の量感はサブスピーカの極性により変化します。しばらく音楽を聴き込んだ後、本機フロントパネルの Polarity の押しボタンスイッチ（4）を切替えて、音の変化をチェックしてください。音像がシッカリとして、モコモコ感のないシッカリとした低音が再生される方を選択します。

●通常は一度良い方を設定した後は、音楽の種類等によりその度切替える必要はありません。

OVERLOAD ランプが点滅した場合

再生中に、本機フロントパネルの OVERLOAD（5）インジケータが、点滅または点灯した場合には、スピーカ入力の場合、プリメインアンプのボリュームを絞った上、本機リアパネルの入力感度切替スイッチ SPKR INPUT SENSITIVITY（8）を「LOW」側に切替えます。プリアンプ入力の場合、プリアンプのボリュームを下げ、点滅しないレベルで使用します。

スーパーステレオの MODE について

●ロックや JAZZ 系の音楽は MODE 1、クラシック音楽は MODE2、ミサ曲や教会音楽等は MODE3 が標準です。

● MODE 1から３にいくほど響きと臨場感が深くなり、広い空間での音場が再現されます。

●音楽の種類だけでなく、その録音状態によっても効果が異なります。自由に切替えてその効果をお試しください。

●テレビニュースなどスーパーステレオ効果が必要でない場合は本機の VOLUME を絞りきります

仕　　様

■ 方　式
アナログ／デジタル・スーパーステレオプロセッサ
サブスピーカ駆動用２CH パワーアンプ内蔵

■入力インピーダンス
LINE IN　　５０KΩ
SPEAKER　　３００Ω

■ 許容入力レベル
オーバーロードインジケータ点灯レベル
LINE IN　　１V
SPEAKERS INPUT SENSITIVITY
HIGH 約１０V（フロントスピーカ出力換算４Ω時２５W）
LOW 約２０V（フロントスピーカ出力換算４Ω時１００W)）

■ 最大出力レベル
ADAPTER LINE OUT　４V（負荷インピーダンス１０KΩ以上）

■ スピーカインピーダンス
４～８Ω

■ パワーアンプ最大出力 （サブスピーカ駆動）
24W ＋ 24W（４Ω負荷）
20W ＋ 20W（８Ω負荷）
（５００Hz 連続実効値）

■ MODE
スーパーステレオモード３段階に切替可能
モード１～３に最適値をプリセット

■ スーパーステレオ回路
アナログ／デジタル方式 特殊分散音発生回路

■ 極性切替えスイッチ
サブスピーカの極性を反転

■ 電源電圧
AC 100 V 50/60Hz

■消費電力
９０VA

■ 外形寸法
430W x ７０H x ２８２ Dmm

■ 重　量
６. ２kg

■ 付属品
・スピーカケーブル １ｍ ｘ２本、７ｍx ２本
・AC 電源用２P-3P ケーブル（日本国内仕様のみ）
・保証書
・本取扱説明書

※仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります

ダイナベクター株式会社

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-16-15
TEL 03-3861-4341 FAX 03-3862-1650

オーディオ製品を安全にお使いいただくために

●絵表示について
製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、色々な絵表示をし

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

この記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に、具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

この記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

この記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

■異常状態や故障のまま使用はしない

万一、煙が出ている、変な匂いや音がする場合は、すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店もしくは弊社に修理を依頼してください。

■キャビネットははずさない

本機器のカバーは絶対に外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店もしくは弊社に依頼してください。

■改造しない

本機器を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■指定電圧以外の電圧で使用しない

表示された電源電圧（日本国内では交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

■水のかかるところに置かない

風呂場では使用しない。製品に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

■水の入った容器を置かない

本機の上に花びん、植木鉢、コップなど水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

■異物や水などが液体が内部に入った場合は、そのまま使用しない
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店か弊社にご相談ください。

■破損した電源ケーブルを使用しない

感電・火災の原因になります。電源ケーブルを取り扱う際は次の点を守ってください。
・電源ケーブルを加工しない
・電源ケーブルの上に重いものを載せない
・無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない
・熱器具の近くに配線しない

■ AC アウトレットにヘアドライヤーなどを接続しない

本機の AC アウトレットに供給できる電力を越えた機器やを接続すると、火災・感電の原因となります。
AC アウトレットに接続できる電力については取扱説明書をお読みください。電熱器具、ヘアドライヤーなどは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる製品などは、接続しないでください。

■電源ケーブルのタコ足配線はしない

発熱し火災の原因になります。家庭用電源コンセント（AC100V）から電源を直接取ってください。

■電源プラグの取扱いに注意
取扱いを誤ると火災の原因となります。取り扱うく際には次の点を守ってください

・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない
・電源プラグは刃の根本まで確実に差し込む

■雷が鳴りだしたら製品に触れない

雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■乾電池を充電しない

リモコン用の付属の乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。また長期間使用しない場合は抜いておいてください。液漏れの原因となります .

⚠注意

■不安定な場所 (ぐらついた台や傾いた所など) に置かないこと

落ちたり、倒れたりして、けがをする恐れがあります。

■重たいものを置かないこと

本機の上に乗ったり、重たいものを置かないでください。ケガの原因となることがあります。

■振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないこと

落ちたり、倒れたりして、けがをする恐れがあります。

■湿気やホコリの多い場所に置かないこと

感電・火災のおそれがあります。

■本機を次のような場所に置かないこと

内部に熱がこもり、火災のおそれがあります。
・押し入れや本箱などの風通しが悪くて狭い所
・じゅうたんや布団の上
・毛布やテーブルクロスのような布をかけない

■旅行など本機を長期間ご使用にならないときは、安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜く

火災の原因となることがあります。

■本機を移動するときは電源プラグをコンセントから抜く

移動する場合は、安全のために電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。

■電源プラグは定期的に清掃する

定期的にコンセントから抜いて刃の根元、および刃と刃の間を清掃してください。
電源プラグを長期間コンセントに差したままにしておくと、電源プラグの刃の根元にホコリが付着し、ショートして火災の原因となるおそれがあります。

■布団などで覆った状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災・感電のおそれがあります。

■接続について

製品を他のオーディオ機器、テレビ等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

■電池について

・電池を製品内に挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナスーの向き）に注意し、表示通 りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。

・指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

・電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■お手入れについて

・お手入れをする際には、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。感電の原因となることがあります。

・表面の汚れやは中性洗剤を薄めた液を布に浸し、固く絞って汚れを取ったあと乾いた布で拭いてください。